

# 完了後の評価個表

整理番号	森4-1
------	------

事業名	森林環境保全整備事業	都道府県	北海道
ふりがな 地域(地区)名	きたみし 北見市	事業実施主体	北海道、北見市、北見広域森林組合等
関係市町村	北見市	管理主体	北見市、北見広域森林組合等
事業実施期間	平成18年度～平成22年度（5年間）	完了後経過年数	6年

事業の概要・目的	<p>① 位置等 北見市は北海道東部の中央に位置し、オホーツク圏最大の中核都市で、面積では、北海道で最大、全国で4番目の広さとなり、香川県の約76%に相当する。常呂川流域沿いに北見、端野、常呂の各自治区、無加川流域沿いに留辺蘂自治区の市街地と農地が形成され、周囲は、国有林、道有林、市有林及び私有林の森林に囲まれている。 また、快晴日数が全国でも有数であり、広大な土地と豊かな森林資源に恵まれ、冷涼小雨で、内陸部は、大陸性気候によって寒暖の差が大きく、特に冬の寒さは厳しい気象条件となっている。</p> <p>② 森林の現況 北見市の総面積は143千haであり、そのうち森林面積は95千haで、総面積の66%を占めている。民有林面積は35千ha（道有林2千ha、その他民有林33千ha）であり、そのうちカラマツ及びトドマツを主体とした人工林面積は19千haである。 また、民有林における人工林率は54%に達し全道平均より上回っている。 林分構成は、林業生産活動が積極的に実施される人工林、大径木の広葉樹が林立する天然林まで多様な林分構成となっているが、人工林の齢級構成ではⅨ～Ⅺ齢級に集中している一方で、Ⅳ～Ⅶ齢級は非常に少なく、偏った資源構成となっている。</p> <p>③ 本地区を整備する目的・意識 民有林の人工林の多くは、主伐期を迎えたカラマツ人工林の皆伐が進んでおり、再造林の推進や造林量の増加による下刈りや除・間伐等の保育をしていく必要があるが、木材価格の低迷等に伴い、森林所有者等の施業意欲が減退しており、森林の有する多面的機能の高度発揮が懸念される状況にあった。 また、森林経営の基盤となる林道等の路網が不十分であったことから、適切な森林施業の実施や効率的な木材生産に支障があった。 このため、森林の有する多面的機能の維持・増進を図り、もって森林環境の保全に資することを目的として、計画的に除・間伐等の森林施業を推進するとともに、路網が必要な森林においては森林管理道の整備を実施した。</p> <p>(事業概要) 森林整備 植栽 1,009ha 下刈 3,016ha 除・間伐 1,021ha、受光伐等 33ha</p> <p>森林管理道整備 ① 吉井沢線 車道幅員 4.0m 開設延長 2,420m 利用区域面積 941ha ② 笹木の沢線 車道幅員 4.0m 開設延長 1,675m 利用区域面積 550ha</p> <p>総事業費 1,165,753千円 (当初総事業費 4,641,582千円)</p>
----------	---

① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成29年度時点における費用対効果分析の結果は以下のとおりである。 なお、事業内容の変更や低コスト化に伴い、事業採択時に比べ総事業費・総便益・総費用が減となった。</p> <table border="0"> <tr> <td>総便益 (B)</td> <td>15,871,344千円</td> <td>(事業採択時</td> <td>22,585,801千円)</td> </tr> <tr> <td>総費用 (C)</td> <td>3,822,096千円</td> <td>(事業採択時</td> <td>10,042,461千円)</td> </tr> <tr> <td>分析結果 (B/C)</td> <td>4.15</td> <td>(事業採択時</td> <td>2.25)</td> </tr> </table>	総便益 (B)	15,871,344千円	(事業採択時	22,585,801千円)	総費用 (C)	3,822,096千円	(事業採択時	10,042,461千円)	分析結果 (B/C)	4.15	(事業採択時	2.25)
総便益 (B)	15,871,344千円	(事業採択時	22,585,801千円)										
総費用 (C)	3,822,096千円	(事業採択時	10,042,461千円)										
分析結果 (B/C)	4.15	(事業採択時	2.25)										
② 事業効果の発現状況	<p>本事業で植栽されたカラマツやトドマツ等の成長は良好で、間伐等を行った箇所とともに多様な環境を持つ健全な山林として育成されており、木材生産のほか水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮が期待される森林が整備された。 林道が整備された区域においては、森林施業の効率化、木材生産の低コスト化が図られたことから、間伐等の森林整備面積が整備前は5年間で276haだったが、整備後は1,106ha実施され、今後も412haの森林整備が計画されるなど森林施業が活性化された。</p>												
③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>森林については森林所有者自ら、又は、森林所有者から経営委託した森林組合が適正に管理を行っており、特に新たに植栽を行った森林については、その後も下刈等の保育施業を適切に実施している。 本事業により開設された林道は、北見市が定めた林道維持管理規程に基づき管理されている。</p>												
④ 事業実施による環境の変化	<p>除・間伐等の施業が実施された森林は、不用木の除去や不良木の淘汰等が適切に行われ、明るく健全な林分に改善された。 林道開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、渓流水の流量の減少などの影響は見受けられない。</p>												

⑤ 社会経済情勢の変化	林道整備により、作業現場へのアクセスの改善、素材生産の低コスト化等が図られ、森林施業の意欲が徐々に増進されてきており、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向けて、地域が一体となって取り組んでいる。
⑥ 今後の課題等	<p>森林施業の実施に対する意欲が徐々に増進されてきているが、木材価格の低迷等により間伐等の実施状況が十分とは言えない状況であることから、森林所有者に対する森林施業実施の普及啓発等を行い、積極的な森林施業の実施を促進する必要がある。</p> <p>(地元の意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林整備事業実施による土砂流出の防止、水源涵養機能等の公益的機能の高度発揮に寄与している。(北海道)</li> <li>・ 林道の開設後は、沿線の小溪流等への散策へ訪れる者の増加してきているとともに、森林災害等の早期発見に寄与している。(北見市)</li> <li>・ 森林整備に伴い、国道、県道及び町道の沿線の危険木が除去され、通行上の安全が確保された。(北見市)</li> </ul>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 森林の有する多面的機能の維持・増進を図るための森林整備が計画的に実施されていること、造林、保育、素材生産等の施業を効率的に行うためのネットワークであり、林業の最も重要な生産基盤である路網が整備されたこと等から事業の必要性が認められる。</li> <li>・ 効率性： 森林整備については、喫緊の課題である間伐を優先的に実施していること、林道整備については、現地に応じた最も効果的かつ効率的な線形の設定に努め工種・工法の選定に当たってもコスト縮減に努めていること等から事業の効率性が認められる。</li> <li>・ 有効性： 適切な森林施業の実施により森林の有する多面的機能の維持・増進に寄与していること、林道整備により森林整備面積が増加していること、さらに持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向け、地域をあげた取組に繋がっていること等から事業の有効性が認められる。</li> </ul>

## 便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業

都道府県名: 北海道

地域(地区)名: <sup>きたみし</sup>北見市

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養 <sup>かん</sup> 便益	洪水防止便益	4,180,107	
	流域貯水便益	695,672	
	水質浄化便益	1,548,547	
山地保全便益	土砂流出防止便益	5,686,568	
環境保全便益	炭素固定便益	1,555,654	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	42,161	
	木材利用増進便益	3,059	
	木材生産確保・増進便益	1,719,309	
森林整備経費縮減等便益	森林整備促進便益	440,267	
総 便 益 (B)		15,871,344	
総 費 用 (C)		3,822,096	
費用便益比	$B \div C = \frac{15,871,344}{3,822,096} = 4.15$		

森林環境保全整備事業 北見市地区 概要図 【北海道】

